

十四兩兵團更には軍爾後の戦闘指導上の不利益尠からざるものあり
四月十三日

軍主力方面に於ては敵の行動活潑ならず
軍は夜襲の成果に鑑み之が中止を命じ第一線兵團は夜襲部隊の撤退掌握戦線の整理等に任ぜり
本部半島は重嶽附近に據る國頭支隊主力は優勢なる敵の爲包圍攻撃を受くるに至り敢闘中なり

四月十四日乃至十八日

敵は依然大規模なる攻撃を準備中なるものの如く彼我戦線大なる變化なし
然れども局所的には敵は戦車を中心として隨所に侵入を策し連日激烈なる小戦闘を各所に惹起せり
軍は第六十二師團の損害著しく増大し其の負擔漸次過重となると共に津堅島を奪取して中城灣に侵入せる敵の行動漸次活潑となり

與那原沿岸に對する上陸企圖樂觀を許さるるものあるに鑑み四月十五日第二十四師團の一部（歩兵第八十九聯隊の一大隊野砲兵第四十二聯隊の一大隊基幹）を運玉森與野原正面に推進し且同地附近に在りし戦車第二十七聯隊を同一の指揮下に入らしめ以て敵の該正面上陸に際しては機を逸せず師團全力を之に増援して反撃し得る如く計畫準備せしむるところありたり
十五日國頭支隊長より八重岳附近の陣地を撤し名護東北タニコ岳に轉進し支隊の第二次任務たる遊撃戦に移る旨の報告あり
又十六日國頭支隊の一部たる伊江島守備隊より敵上陸の報告あり爾後同島守備隊との通信斷絶し状況不明となる

其の四 敵の本格的攻撃より軍の攻勢迄（自四月十九日）
至五月五日）

四月十九日

敵は朝來總攻撃を開始す

第六十二師團及軍砲兵隊は相協力して善戦す

四月二十日

敵攻撃の重點は西海岸道方面に在り
二十日夕に於ける彼我の戦線は大なる變化なきも敵は我が左翼伊祖、四四高地港川附近に進出す

牧港より伊祖を経て安波茶に至る地域は敵機甲部隊の侵入容易なる地形上の弱點なりしが第六十二師團及其の隷下歩兵第六十四旅團は四月八日攻勢同十二日の夜襲竝に引續く中央正面の激闘に基因して指揮の餘裕を失ひ且豫備兵力を消耗せると依然城間より南飛行場方面に亘る海正面防禦に牽制せられ其の左翼の防禦配備が十分陸正面に轉換し切らざる間隙に乗ぜられたるの嫌ひあり

四月二十一日

第六十二師團は敵の猛攻に對し克く一四一高地、我如古の線を保し敵侵入都度之を撃退しあり
嘉敷に於て善戦中なりし獨立歩兵第二十三大隊は此の夜同地を放棄し安波茶に後退す
歩兵第六十四旅團は獨立歩兵第十五大隊同第二十一大隊を以て白

砲第一聯隊主力と協同し夜襲に依り伊祖、四八高地の線に進出せるも全面的奪回に至らず敵は海陸より盛に牧港附近に兵力を増強中なり

四月二十二日、二十三日

全線激闘を續行す

右翼南上原高地方面に於ては歩兵第六十三旅團の主力（獨立歩兵第十一、第十二、第十四大隊茲に指揮下に入れる歩兵第二十二聯隊第二大隊又伊祖正面に於て歩兵第六十四旅團主力（獨立歩兵第二十一、第二十三、第十五大隊竝に指揮下に入れる歩兵第三十二聯隊第三大隊主力）夫々敢闘中なるも兩方面の危機刻々増大す
以上の如き情勢に於て軍は第二十四旅團師及獨立混成第四十四旅團を北方陸正面に轉用するに決せり其の理由及部署の概要次の如し

理由

一敵は現在の攻撃を續行し首里東西の線に進出し得ば地形上我が軍死命を制し其の欲する飛行場群を確實に占領使用し得るを以

て危険なる新上陸作戦を我が背後に行ふことなく其の得意とする巨大なる物量を思ふが儘に驅使して現在の攻撃を専念續行するは一策なるべし

然れども略々敵が認むる如く我が軍の頑強なる抵抗を排除しつ首里東西の線に進出するには尙多くの日數と多大の犠牲を要すること明瞭なるを以て我が軍が北方戦線の急に應ずる爲逐次主力を之に投入し終る頃我が背後に新上陸を實施せば其の上陸は安全容易にして然も戦鬪終結は迅速なるべく敵の爲には更に有利なる策案なりと考察せらる

狀況を判断するに敵は依然前案に固執するやに觀察せらるるも或は後案に出でて局面の打開を策するやも計られず其の行動は一に敵の意志如何に依るものにして豫斷を許さず我としては何れにも對應し得る如く準備しあらざるべからず

二、目下第六十二師團と交戦しつつある敵は第二十四軍團の三ヶ師團にして尙北方國頭地區に作戦しつつある敵は海兵第三軍團の

二ヶ師團更に此の兩者の中間中頭地區に一、二ヶ師團控置せられあるものの如く遠からず是等の兵力も軍主力方面に投入せらるるものと覺悟せざるべからず

斯かる優勢なる敵に對し軍は單に第六十二師團のみを以て對抗する能はず既に同師團は今日迄の戦鬪に於て二分一以上の兵力を損耗し且驚歎すべき頑強さを以て善戦しつつも日々敵に地歩を譲りつつある狀況なり

若し軍が我が背後に對する新上陸を恐るるの餘り軍主力を依然海正面に存置し第六十二師團の正面を省みるところなからんか其の崩壞の危機は急速に招來すべく二兎を追つて一兎をも得ざる結果となるべし今や一般の狀況は軍の一大決心を爲すべき時なり

三、茲に於て軍は英斷主力を北方陸正面に投入し飽く迄首里戦線を確保するに決し背後海正面は極力我が部署の變更を秘匿し敵に乘ぜざる如く勉むると共に萬一敵が新上陸を企つる場合に於て

は全戦線を收縮し首里を中心とする圓形複郭陣地に據ることとせり

下方針

軍は主力を北方陸正面の戦線に投入し戦略持久作戦を續行す
敵にして若し軍の背後に對し新に上陸攻撃し來たる場合は豫め準備せる首里中心の複郭陣地に兵力を集約し最後の兵迄敢闘す

三 部署の概要

一 第二十四師團

右第一線兵團として我射、小波津、幸地、前田の線を占領す
現在第六十二師團右翼の保持し得る上原附近の高地帯は早晚敵手に入るを豫期す

二 第六十二師團

極力現在線の保持に勉め止むを得ざるに至れば左第一線兵團として仲間、伊祖、城間の線を確保す

三 獨立混成第四十四旅團

軍
小波津

第二十四師團の轉進進捗に伴ひ首里西側天久台より那覇海岸に亘る線を占領し第六十二師團の後方に第二線陣地帯を構成す

四 海軍陸戦隊

依然小祿飛行場正面を守備す

五 軍砲兵隊

第二十四師團及混成旅團の砲兵をも統一指揮し依然第一線各兵團の防禦戦闘に協同す

六 島尻警備隊

兵站地區司令官は特設部隊並に第二十四師團及獨立混成旅團の殘置部隊を併せ指揮し島尻警備隊となり軍の背後海正面の警備に任じ極力我が企圖を欺騙し敵の新上陸に對しては歩々抵抗しつつ軍主力に合す

機密作戰日誌

軍爾後の作戰方針としては原案の外に左記策案ありしも軍參謀長の原案支持強く本案は採用せられざりき

左記

首里戦線は依然第六十二師團をして擔任せしめ狀況止むを得ざるに至れば首里復郭陣地に據らしめ第二十四師團は興座、八重瀬兩高地を據點とする嘉屋半島陣地、獨立混成旅團は糸敷高地を據點とする知念半島陣地に據り三據點を實行す

軍砲兵隊其の他の軍直轄部隊は適宜分割して右三兵團に配屬す
四月二十四日乃至二十六日

第一線の激闘續行一般の戦線大なる變化なきも上原高地帯及牧港正面は敵の滲透著しく危機愈々切迫す

軍は第六十二師團が戦線保持の爲獨立歩兵第二百七十三、第十五第二十三大隊を逐次北方に抽出轉用せし爲罅隙を生じたる首里、天久、那覇方面を急速に強化する爲二十五日獨立混成第十五聯隊第一大隊及獨立第三大隊を混成旅團より抽出夫々天久國場に前進せしめ一時第六十二師團長の指揮下に入らしめたり

四月二十七日

陸軍

第二十四師團は所命の如く我射、小波津、翁長、幸地及前田附近の線に展開を完了せり

第六十二師團は南上原の高地帯に於て死闘中なりし獨立歩兵第十一、第十二、第十四大隊等を此の夜仲間、前田附近に撤退せしめたり兩師團の作戰地境は首里城趾（含む）大名、仲間各東端宜野灣西端の線とせられあるも新たに戦線に加入せる第二十四師團特に其の左翼歩兵第三十二聯隊の防禦態勢確立する迄同師團の作戰地境内に在る第六十二師團の諸部隊（歩兵第六十三旅團主力）は別命ある迄現任務を續行する如く命令せられあり

獨立混成第四十四旅團は軍命令に基き首里西方地區に概ね進出を完了す同旅團の進出に伴ひ軍及旅團の處置の概要左の如し
第二歩兵隊第三大隊

依然現在地（雨乞森附近）を守備したる儘第二十四師團長の指揮下に入る
獨立速射砲第七大隊の一部配屬如故

知念支隊

重砲兵第七聯隊、船舶工兵第二十三聯隊、獨立第二十九大隊は重砲兵第七聯隊之を併せ指揮し知念支隊となり獨立混成旅團首里西方地區轉進後其の舊作戰地域の守備に任ず
混成旅團展開の概要次の如し

旅團司令部 首里軍司令部（一特職名に位置せり）

右地區隊（獨立混成第十五聯隊主力、獨速第七大隊主力）

天久台占領

左地區隊（特設第六聯隊主力）

那覇地區占領

南地區隊（船舶工兵第二十六聯隊）

長堂附近占領

旅團砲兵隊

國場附近陣地占領

四月二十八日

第二十四師團方面

南上原高地帯を占領せる敵は第二十四師團の新陣地線に近接し各所に小戦を惹起す

中城灣岸に沿ひ我謝方面に進出せんとする敵は知念支隊の側防砲兵に脅威せられ行動活潑ならず

前田高地は豫期に反し敵に占領せられ南上原附近より後退せる獨立歩兵第十三大隊其の他の部隊は同高地我が方斜面の洞窟陣地内に壓迫せらる前田、仲間高地は首里山麓に至る間我が方陣地帯内全域を瞰制するのみならず我は同高地の爲妨害せられて敵線内部を觀測する能はざるの要地なり同高地の確保は軍全陣地の爲のみならず第一線西兵團及軍砲兵隊の爲緊要なり依つて軍兩兵團に命じ相協力して同高地を確保する如く督勵す第二十四師團、新銳歩兵第三十二聯隊をして此の任に服せしめたるも地形、錯雜、狀況不明加ふるに熾烈なる敵砲爆を避けて夜間行動を取れる爲同聯隊の攻撃は至難にして機に合せざるものあり

第六十二師團

右翼歩兵第六十二旅團は歩兵第三十二聯隊の進出に伴ひ逐次其の掩護下に兵力の集結整理の態勢に移行しつつあり

左翼歩兵第六十四旅團は敵の滲透急速にして仲間、安波茶屋富祖三二高地城間の線を辛うじて保持し激闘中なり

獨立混成第四十四旅團

逐次新陣地に於て態勢を整頓しあり

四月二十九日

軍は戰略持久の方針を再び放棄し五月四日攻勢に轉ずるに決す

機密作戦日誌

四月一日敵の上陸以來我が軍は其の力戰奮闘に拘らず平均日々百米内外陣地を蠶食せられつつありて戦局の前途軍の運命に對し司令部首腦部の憂色頗る深刻となれり

過去一ヶ月間の戦闘に於て約二杆の縦深に亘り主陣地帯を奪取せられぬ第六十二師團の戦力二分一以下に減少せることは嚴たる事

陸軍

實なり

然れども我も亦敵に甚大なる損害を與へ軍主力たる第二十四師團獨立混成第四十四旅團軍砲兵隊其の他後方諸部隊は未だ無傷なり太平洋戦開始以來未だ曾つて餘裕綽々一ヶ月に亘り組織的戦闘を繼續し然も今尙嚴として主力を保有しあるが如き戦例何處にありや自信力を増大せよ憂ふるなかれ戦ひは今後に在り」と激勵するも悲觀的空氣去るべくもあらず軍參謀長は現狀を以て推移せんか軍の戦力は蠟燭の如く消磨し軍の運命盡くべきこと明白なり宜しく攻撃戦力を保有しある時期に攻勢を取り運命の打開を策せざるべからずとの意見を提案せられ各參謀熱烈に之を支持す

獨り高級參謀は從來の作戰方針を堅持し極力攻勢案に反對す主なる理由左の如し

敵の消耗は勿論大なるべきも敵の戦力は我に比し依然壓倒的に優勢なり古今東西特に近代戦に於て「攻撃は壓倒的優勢を保持せざれば奏效せず」とは明白なる戦ひの原則にして兵家の常識

なり然るに今劣勢なる我が軍が絶體優勢なる敵に對し攻勢を取るが如きは無暴も甚しく必敗明瞭なり

2. 南上原の高地が我が有に在りし間ならば尙地形的に局部的成功の希望なきにしもあらざるも之が敵の領有に歸したる今日先ず同高地帯に攻勢を取らざるべからざる現狀に於て攻勢失敗は愈々確定的なり

3. 軍は自らの最後の運命——如何にもかくも全滅は必至なり——を冷靜に認得し飽く迄戰略持久の方針を逸することなく作戰を繼續すべきなり

攻勢に依り戰勝を夢みるが如きは所謂痴人の夢に屬するものにして又自らの運命に堪へ其の任務を最善に達成せんとする意志に缺如するものと謂はざるべからず

攻勢を取れば失敗は必定失敗すれば戰略持久も其迄本土決戰の爲の持久日數も短少となる更には敵に與ふる損害は尠くして我は幾萬の將兵を一舉にして攻勢の犠牲とし實質的には所謂徒死

陸

軍

東京小澤稿

せしむるものにして深思三省の要あり

高級參謀の必死的反對論に對し軍參謀長は平素の強硬斷乎たる性格に似ず高級參謀の手を握り熱涙と共に攻勢に同意せんことを懇請せられ軍司令官も亦平素一言も發せざる性格とは反對に言を勵まして高級參謀を叱責せらる茲に於て攻勢は軍主腦部一致の形式を以て採用せられたり

軍司令官の決心に基く攻撃部署の概要左の如し

方針

軍は總力を結集し五月四日黎明より攻勢を開始し重點を右翼第二十四師團正面に保持しつつ突進し普天間東西の線以南に於て敵主力を捕捉撃滅す

兵團部署の概要

一 左逆上陸隊

船舶工兵第二十六聯隊

海上挺進第二十六、第二十八、第二十九戰隊の各一部

以上總員約七百名

大發の剗舟に依る主力部隊に干潮時を利用して珊瑚礁上を徒歩前進する一部部隊を以て五月三日那覇沿岸出發大山附近敵後方地帯に逆上陸し敵の砲兵陣地高等司令部等を急襲し軍主力の攻勢を容易ならしむ

二 右逆上陸隊

船舶工兵第二十三聯隊（聯隊長及一部攻撃行動不参加）
海上挺進第二十七戰隊の一部

以上總員約五百

左逆上陸隊と同要領に依り五月三日夜津霸附近に逆上陸し軍主力攻勢を容易ならしむ

三 第六十二師團は極力現陣地特に前田、仲間高地を保持して攻勢の支撐となる軍主力の攻勢進展に伴ひ之に連繫して攻勢に轉ず

四 第二十四師團は五月四日〇四五〇より約三十分間攻撃準備射

陸軍

撃を実施したる後攻撃を開始し先ず南上原高地を攻略し引續き普天間東西の線に進出す

五 獨立混成第四十四旅團は五月三日夜現陣地より首里東北地區に轉進し第二十四師團が南上原高地に進出するや機を逸せず同師團と第六十二師團の中間地區を超越大山方向に突進し先ず第六十二師團左翼方面に沿ふ契入せる敵海兵軍團の退路を遮斷し第六十二師團と協同して之を撃滅す

旅團の現作戰地域の防禦は第六十二師團長の擔任す

六 軍砲兵隊は五月四日〇四五〇より約三十分間主として第二十四師團正面敵第一線に對し攻撃準備射撃を実施し爾後先ず主力を以て同師團の攻撃に協同す

七 海軍陸戰隊は精銳四ヶ大隊を編成し隨時戦線に加入し得る如く現陣地に於て待機す

陸戰隊司令部は首里軍司令部洞窟に推進す

四月三十日